「ヘルプマーク」「ヘルプカード」を知ろう

「ヘルプマーク」「ヘルプカード」は援助が必要なことを伝えるためのマークやカードです。見かけたら、思いやりのある行動をお願いします。

ヘルプマークを知ろう

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としている方々が、バッグ等に身に着けることで、外見からはわからなくても、手助けを必要とすることへの理解を求めるものです。

- 電車やバスの中で、マークの利用者を見かけたら席をゆずりましょう。
- 駅やお店などで、困っているようであれば、声をかけるなどの思いやりのある行動をお願いします。
- 災害時は、マークの利用者が安全に避難するための支援をお願いします。

ヘルプカードを知ろう

手助けが必要な人が普段から身につけておくことで、災害が起きたときや困ったときなどに、周囲の人に配慮や手助けをお願いしやすくするものです。

カードには、ご本人の氏名や緊急連絡先、必要な援助などを記載する欄があるため、カードを見せることで周囲の人に必要な情報をすぐに、正確に伝えることができます。

・「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の詳しい情報は下記県庁ホームページから確認できます。
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/16101.html

岐阜県　健康福祉部　障害福祉課　社会参加推進係
☎058-272-1111　FAX058-278-2643　E-mail: c11226@pref.gifu.lg.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK
UD FONT
禁無断転載ⓒ東京法規出版

みんなが笑顔になるために

障がいのある人について知ろう

このマークは視覚に障がいのある人などが使うUni-Voiceです。スマートフォンや専用の読み上げ装置で読み取ると、音声で内容の一部を確認できます。

岐阜県

はじめに

～まずは「知ること」が大切です～

わたしたちの暮らす社会には、さまざまな人がいます。障がいのある人もそうです。では、障がいにはどんなものがあるのか知っていますか。

まずは、障がいを「知ること」からはじめましょう。知ることができれば、次に、どうすれば「助け合うこと」ができるのかを考えることができるようになります。

みんなで知って、みんなで考えて、みんなが笑顔で暮らせる社会をつくりましょう。

もくじ

知ってください！「障害者差別解消法」 …… 1

「人にやさしい岐阜県」を目指します …… 2

「障がい」のある人についてもっと知ろう …… 3

視覚障がい を知ろう …… 4
聴覚障がい を知ろう …… 6
肢体不自由 を知ろう …… 8
内部障がい を知ろう …… 10
発達障がい を知ろう …… 12
知的障がい を知ろう …… 13
精神障がい を知ろう …… 13

身体障がい者補助犬を知ろう …… 14

障がいのある人への「差別」をなくそう …… 15

どんなことが差別になっているのかな？ …… 16

こんな心づかいで差別をなくしていこう！ …… 18

障がいのある人に関するマークを知ろう …… 20

ヘルプマーク、ヘルプカードについて知ろう …… 裏表紙

知ってください！「障害者差別解消法」

障害者差別解消法では、
障がいのある人への差別をなくすことで、
障がいのある人もない人も、
その人らしさを認め合って、
ともに生きる社会をつくることを目ざしています。
この法律では、

「不当な差別的取扱いを禁止する」ことと

「合理的配慮を提供する」ことが、

役所や会社・お店などに
求められています。

不当な差別的取扱いを禁止する

例えば、障がいがあるという理由でスポーツクラブに入れないこと、車いすだからといってお店に入れないことなどは、障がいのない人と違う扱いを受けているので、「不当な差別的取扱い」であると考えられます。

このような障がいのある人に対して、障がいがあることを理由にサービスの提供を拒否したり、制限したりすることを禁止します。

合理的配慮を提供する

例えば、聴覚障がいのある人に音声だけで伝えたり、視覚障がいのある人に文書で伝えたりするだけでは、障がいのない人に伝えている情報を、障がいのある人には伝えていないことになり、「合理的配慮を提供していない」ことになります。

障がいのある人が困っていて、何らかの対応を必要という意思が伝えられたときに、その人の障がいを理解して、その人に合った対応を無理のない範囲で行うことが求められています。

障がいのある人もない人も共に活躍し、安心して暮らせる

「人にやさしい岐阜県」

を目指します。

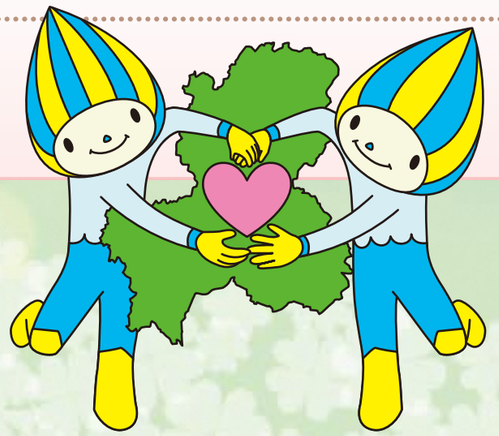
岐阜県では、県民誰もが共に活躍し、安心して暮らせる社会づくりを進めるため「岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例」を制定しました。

豊かな森を源として県内をあまねく流れる「清流」は、美しい自然や伝統的な文化を育くんできただけでなく、里や街、人と人とをつなぎ、地域の絆を深め、障がいのある人もない人も共に生きる社会を徐々に育んできました。

しかし、障がいのある人の社会参加が進む中、いまだに障がいを理由とする差別は存在します。それを無くしていくには、障がいのある人への理解を深め、障がいを理由とする差別の解消を進めるのはもちろん、さらに一歩進んで、障がいのある人とない人とが積極的に交流する機会を増やし、障がいのある人もない人もともに生きる社会づくりを進めていかなければなりません。

そこで、全ての県民のために、障がいを理由とする差別を解消するとともに、一人ひとりの違いを認め合い、かけがえのない個人として尊重し合い、障がいのある人もない人も共に生きる社会づくりを目指して「岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例」が施行されました。

この条例では、障がいのある人とない人の交流を促進するとともに、障がい者への理解を深めるための障害者マークの普及を進めることや手話を学ぶ機会を確保することなど、県民一丸となって、障がい者の差別解消に向けた取り組みを進めていくこととしています。



「障がい」のある人についてもっと知ろう

「障がい」って?

「障がい」とは、何らかの原因で体や心のどこかがうまく働かないために、日常生活や社会生活で、まわりからの理解や協力が必要な状態です。

生まれたときから障がいのある人もいれば、病気や事故などによって障がいをうける人もいます。障がいは、だれにとっても身近なことです。

まずは、どんな障がいがあるかを知りましょう。そして、まわりの大人の力もかりて、わたしたちにどんな手助けができるのかを考えてみましょう。

いっしょにいるときは?

自然な気持ちで助け合う

障がいのあるなしにかかわらず、困っている人を助けるのは当然のことです。「おたがいさま」という自然な気持ちで助け合いましょう。

一人ひとりのちがいを理解する

障がいには、さまざまな種類や症状のちがいがあります。障がいのある人の個性や特ちょうも一人ひとりちがいます。

相手の立場になって考える

親切のつもりが、かえってめいわくなこともあります。障がいのある人が、どんなことをしてほしいかをきちんと聞いてから手助けしましょう。

特別あつかいをしない

障がいのある人を特別な目で見るのはやめましょう。同情するのではなく、その人のためになるお手伝いをしましょう。

視覚障がいを知ろう

「視覚障がい」とは、目が見えない、または見えにくいといったことから、まちを歩いたり、読み書きをしたり、身の回りのことをするときなどに困ってしまうことがある状態です。

視覚障がいの特性は？

- 白いつえをついていたり、盲導犬をつれていたりすることがありますが、外見からはわからない人もいます。
- 音声や点字、手でさわることなどで必要な情報を得ています。
- 見えかたは、「全く見えない」「ぼやけて見える」「中心やまわりが見えない」などさまざまです。
- 「明るさ」や「色」がわかりにくい人もいます。

など

こんなことに困っています

- なれていない場所を歩いたり、電車やバスなど公共交通機関で移動したりするとき。
- さまざまな文字を読んだり、書いたりすること。
- 点字が読めない人もいます。
- まわりの状況がわかりにくいので、助けてほしくても、自分から助けを求められないことがあります。

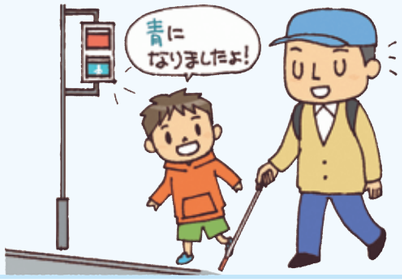
など

わたしたちにできること

たとえば

横断歩道をわたるとき

音声案内のない信号では、「信号が青になりましたよ」などと声をかけ、希望があればいっしょにわたりましょう。



たとえば

出入りをするとき

すすんでドアなどの開閉をしましょう。ドアにぶつかったり、はさまれたりしないように、ゆっくり開閉します。

たとえば

位置を伝えるとき

物の位置などを知らせるときは、「ここ」「あそこ」などではなく、時計の文字盤にたとえるなど具体的に伝えましょう。

たとえば

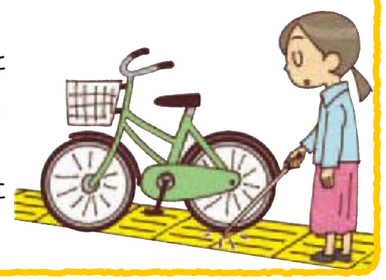
道路を歩くとき

ゲーム機やけい帯電話などの「ながら歩き」はやめましょう。視覚障がいのある人に気づかないことがあります。

ほかにもどんな手助けができるか、家族や友だちと話し合ってみましょう。

「点字ブロック」の役割

点字ブロックは、視覚障がいのある人がひとりで歩くことができるように、歩道や駅のホームなどに設置してあります。その上に自転車などが置いてあると進めなくなります。また、点字ブロックの上で立ち話などをしていると通行のじゃまになるので注意しましょう。



聴覚障がいを知ろう

「聴覚障がい」とは、耳が聞こえない、または聞こえにくいといったことから、人と会話をしたり、音から情報を得たりするときなどに困ってしまう場合がある状態です。

聴覚障がいの特性は？

- 手話や文字、図などから必要な情報を得ています。
- 話している相手の表情や口の動きなどを読みとって、話の内容を補っている人もいます。
- 耳に補聴器などをつけていることがありますが、外見からはわからない人もいます。
- 話せていても、聞こえていないことがあります。

など

こんなことに困っています

- まちを歩いているときなどに、車のクラクションなどが聞こえません。
- 駅の構内や電車内などでのアナウンスや、災害のときなどの緊急警報などが聞こえません。
- 手話ができない人もいます。
- マスクをした人からは、表情や口もとが読みとれません。
- 大声で話しかけられて、逆に聞き取りにくくなることがあります。

など

わたしたちにできること

たとえば

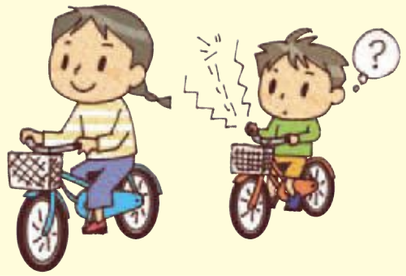
会話をするとき

紙などに書いて伝える「筆談」が便利です。長い文章はわかりにくいので、短くわかりやすい文を心がけましょう。

たとえば

自転車に乗るとき

ベルの音が聞こえないようなら、「聞こえない理由があるのかも」と考えて無理な追いこしなどはやめましょう。



たとえば

アナウンスが流れたとき

駅や電車、バスなどでアナウンスが流れたときは、電光掲示板のあるところを示すなどして知らせましょう。

たとえば

もっと話したいとき

手話などに興味を持ちましょう。また、口の動きやジェスチャー、絵など相手に伝わりやすい工夫をしましょう。

ほかにもどんな手助けができるか、家族や友だちと話し合ってみましょう。

「盲ろう」について

「盲ろう」とは、視覚と聴覚の両方に障がいがある状態です。見えかたや聞こえかたはさまざまなので、その人に合わせた会話の工夫が大切です。相手の手のひらに指先などで文字を書いたり、相手の指をとって手のひらや机などに文字を書く「手のひら書き」などの方法があります。

肢体不自由を知ろう

「肢体不自由」とは、けがや病気で手や足など体の一部、または全身に障がいがあり、立ったり座ったり、歩いたりするときなどに困ってしまう場合がある状態です。

肢体不自由の特性は？

- 車いす、つえ、歩行器、義足、補そう具などを利用している人がいます。
- 車いすの人は、ほかの立っている大人などとくらべると、視線の位置が低くなります。
- 体に「まひ」があると、文字を書いたり会話をしたりするのがむずかしい場合があります。けがなどの影響で、体温の調節が、むずかしい場合があります。

など

こんなことに困っています

- 車いすで階段をのぼりおりするとき。
- 車いすで、急な坂道や長い坂道、でこぼこした道、段差のある道を移動するとき。
- 車いすで、高いところの物を取ったり、ゆかに落ちた物をひろったりするとき。
- 「まひ」の影響で、電車やバスなどで体のバランスをくずしやすくなります。

など

わたしたちにできること

たとえば 物を取るとき

車いすの人がたなの高いところや、ゆかに近い低いところから商品を取るときなどは、代わりに取りましょう。

たとえば 電車などに乗るとき

電車などには、車いすの人が利用しやすいスペースがあります。乗車してきたら、スペースを空けましょう。

たとえば 電車で席をゆずるとき

つえなどを使っている人が立ち上がりやすいように、なるべく手すりのあるはしの席をゆずりましょう。

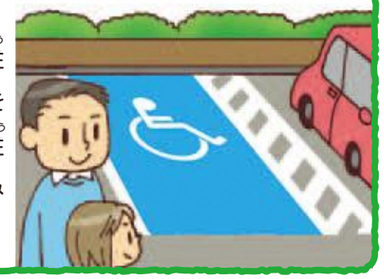
たとえば エレベーターに乗るとき

デパートなどには「車いす・ベビーカー優先」のエレベーターがあります。なるべく利用はひかえましょう。

ほかにもどんな手助けができるか、家族や友だちと話し合ってみましょう。

「障がい者用駐車スペース」って？

多くの駐車場には、通常よりもはばの広い「障がい者用駐車スペース」があります。これは車いすの人や、つえなどを使っている人などの車の乗り降りに必要なはばを確保した駐車スペースです。必要のない場合は利用しないように家族みんなで注意しましょう。



内部障がいを知ろう

「内部障がい」とは、病気などのために体のなか（内臓）の働きに障がいがあり、それぞれの障がいの種類によって日々の生活で困ってしまう場合がある状態です。

おもな内部障がいの種類

「心臓」の障がい

心臓の働きが低下した状態です。心臓の働きを保つペースメーカーという機械を使用している人もいます。

「呼吸器」の障がい

呼吸器の働きが低下した状態です。体のなかの酸素が不足するため、酸素吸入装置を使用している人もいます。

「ぼうこう・直腸」の障がい

ぼうこうや直腸の働きが低下した状態です。人工ぼうこうや人工こう門を使用している人（オストメイト）もいます。

「腎臓」の障がい

腎臓の働きが低下した状態です。人工とうせきという治療を定期的に受けている人もいます。

●ほかにも「肝臓」「小腸」「免疫」の働きの低下した障がいなどがあります。
外見からはわからないことも多いので、まわりから理解してもらいにくい場合があります。

こんなことに困っています

●心臓に障がいがある人は、疲れやすかったり、胸がどきどきしやすかったりします。

●呼吸器に障がいがある人は、たばこのけむりをとても苦しく感じます。

●ぼうこうや直腸に障がいがある人は、外出しているとき、広いスペースのトイレがないと不便です。

●免疫に障がいがある人は、かぜなどがうつると、悪化しやすくなります。

など

わたしたちにできること

たとえば

けい帯電話をもっているとき

心臓ペースメーカーの機械をつけた人がいるかもしれないので、優先席付近ではけい帯電話などの電源は切りましょう。

たとえば

買い物に行ったとき

体力がなく疲れやすいことが多いので、買い物に出かけたら、重い荷物を代わってもつなど協力しましょう。

たとえば

かぜをひいたとき

免疫力が落ちていることが多く、かぜなどの感染症にかかりやすいので、うつさないようにしましょう。

たとえば

電車で座っているとき

内部障がいは外見ではわかりにくいので、近くに立っているのがつらそうな人などがいたら進んで席をゆずりましょう。

ほかにもどんな手助けができるか、家族や友だちと話し合ってみましょう。

「多目的トイレ」はだれのため？

ショッピングセンターなどにある「多目的トイレ」は、人工ぼうこうや人工こう門を使用している人（オストメイト）、車いすの人、赤ちゃんづれの人などのために、広いスペースや必要な設備が整えられたトイレです。必要のない場合は利用しないようにしましょう。

発達障がいを知ろう

「発達障がい」とは、脳の発達の一部に障がいがあって、集団生活などで困ってしまう場合がある状態です。本人の努力不足や家庭の問題と誤解されてしまうことがあります。

発達障がいの特性や困りごと

- 多くは低年齢のときから症状があらわれます。ただし、大人になってから障がいがわかることもあります。
- 学校の勉強などに必要な「読む」「書く」「聞く」「話す」「計算する」といったことのなかで、とても苦手なものがあったりします。
- 気が散りやすく集中できないので、うっかりミスなどが多くなります。
- 長い時間じっとしていられず、勝手に動き回ったりします。
- 相手の気持ちや、まわりの状況などを考えてから行動することが苦手だったりします。
- 自分の興味のあることや、得意にしていることでは、とてもすぐれた才能をあらわします。

わたしたちにできること

障がいを知っておく

まずは、このような障がいがあるということを知っておくことが大切です。障がいは、本人のせいではありません。

みんなで手助けする

自分のまわりやクラスメイトなどに発達障がいのある人がいたら、親や学校の先生といった大人たちといっしょに、あたたかい目で見守ることからはじめましょう。

知的障がいを知ろう

「知的障がい」とは、脳の発達がほかの同じ年齢の人たちとくらべてゆっくりしているため、日々の生活や学習するときなどで困ってしまう場合がある状態です。

知的障がいの特性や困りごと

- 会話をするとき、短い言葉はわかっても、複雑な話だったり、早口だったりするとわかりづらくなります。
- 文字を書いたり、長い文章を読んだり、計算したりすることが苦手です。
- 人に何かをたずねたり、自分の考えを伝えたりすることが苦手です。
- いつもとちがう環境にいるときや、急に予定が変わったときなどに、それに合わせた行動をとることが苦手です。

精神障がいを知ろう

「精神障がい」とは、心の病気などによって、社会生活などで困ってしまう場合がある状態です。外見からはわかりにくく、障がいの種類もさまざまです。

精神障がいの特性や困りごと

- きちんと治療すれば、症状が安定して回復に向かいますが、症状が残ったり再発したりすることがあります。
- まわりから障がいを理解されず、ひとりで悩んでしまうことがあります。
- ストレスに弱く、心が疲れやすい面があります。
- 長く入院生活を送ったりすることがあるので、社会生活になれていない人がいます。

身体障がい者補助犬を知ろう

身体障がい者補助犬とは

「身体障がい者補助犬」とは、特別な訓練や衛生管理の行き届いた犬のことで、公共施設や交通機関をはじめ、飲食店やスーパー、ホテルなどいろいろな場所へ連れて行くことが認められています。

補助犬の種類

盲導犬

視覚障がいのある人を助ける犬です。交差点や段差で止まったり、障がい物や車の接近を知らせたりして歩行を助けます。白や黄色の「ハーネス（胴輪）」をつけています。

聴導犬

聴覚障がいのある人を助ける犬です。ブザーや電話の呼び出しなど日常生活で必要な音を知らせて行動を助けます。外出時には「聴導犬」と書かれた胴着をつけています。

介助犬

肢体不自由のある人を助ける犬です。落とした物を拾ったり、ドアの開閉をしたりするなど日常生活を助けます。外出時には「介助犬」と書かれた胴着をつけています。

補助犬のじゃまをしない

身体障がい者補助犬には、障がいのある人の体の一部として働くという大切な役割があります。かわいいと思っても、さわったりして補助犬の仕事のじゃまになるようなことはやめましょう。もちろん、いたずらなどをするのは禁物です。補助犬の役割をきちんと理解して、みんなであたたかく受け入れましょう。

障がいのある人への「差別」をなくそう

「差別」はしていない？

「障がいのある人を差別してはいけない」というのは、だれにでもすぐにわかることです。そして、障がいがあるからといって、いじわるで差別しているような人は、ほとんどいないのではないでしょうか。

しかし、現実の社会では、障がいのある人が何かと暮らしにくい環境にあるのも確かです。なぜでしょうか。それは「差別しているつもりはない」という思いだけでは、だれもが平等に暮らせる社会をつくるには不十分だからです。

「差別」に気づくためには？

まちを見直して考える

まちのなかに、障がいのない人には平気でも、障がいのある人にとっては通りにくい道路、利用しにくい建物・設備などはないでしょうか。

生活を見直して考える

お店や施設などを利用するときに、障がいのある人だけが、理由もなく利用を断られていることはないでしょうか。

心のなかを見直して考える

もしかしたら、自分の心のなかに、障がいのある人のことをかたよった目で見たり、きらったりするような考えはないでしょうか。

みんなでいっしょに考える

障がいのある人への差別に気づき、それをなくしていくためには、社会全体で取り組むことが大切です。大人も子どもも、いっしょになって考えましょう。

どんなことが差別になっているのかな？

たとえば

道路などで

でこぼこや段差の多い道路だったので、車いすの人が通れなかった。また、道路のはばがせまかったので、車いすの人が通れなかった。

たとえば

書類などで

知的障がいのある人が確認が必要な書類を見たが、その人にとっては、むずかしい漢字や文章が多く、理解できないものだった。

たとえば

駅などで

駅の構内で、障がいのある人が目的地に行くために、どの電車を利用すればいいのかわからず駅員にたずねたが、わかるように説明してくれなかった。

たとえば

入会手続きなどで

スポーツクラブやカルチャーセンターなどに入会しようとして、障がいがあることを伝えると、そのことだけを理由に入会をことわられた。

たとえば

レストランなどで

車いすの人がレストランへの入店を希望したが、店のなかは車いすが自由に移動できるようなスペースの余裕がないので入店をことわられた。

たとえば

部屋さがしなどで

障がいのある人がアパートやマンションなどの部屋さがしをたのんだが、さがしにくいということで、希望を聞く前にことわられた。

たとえば

避難所などで

災害時の避難所で、聴覚障がいのある人が、ことを管理者に伝えていたが、必要な情報が音声アナウンスでしか行われなかった。

たとえば

会議などで

役所での会議にまねかれた障がいのある人が、内容を理解するためのサポートが必要だとお願いしていたが、そのための対応がされなかった。

みんなは大丈夫かな？

優先席に座っていて

電車やバスなどの優先席に座っていて、そばに障がいのある人がいるのに、席をゆずらなかったということはありませんか。その席を本当に必要としている人のことを考えましょう。

みんなは大丈夫かな？

レストランで食事をしていて

レストランなどに盲導犬など身体障がい者補助犬をつれた人が入ってきたとき、いやな顔をしたり、文句を言ったりしたことはありませんか。補助犬の大切な役割を考えましょう。

こんな心づかいで差別をなくしていこう!

たとえば

お店の通路などで

お店のなかや建物のなかで、車いすの人でも自由に移動しやすいように、通路の段差をなくしたり、はばを広くしたりするなどの工夫をする。

たとえば

書類などで

書類の文字を大きくしたり、ふり仮名をつけたりする。また、代わりに読み上げたり、大切なところをわかりやすく説明したりする。

たとえば

レストランなどで

視覚障がいのある人などに、お店で出されているメニューやサービスの内容などをスタッフが読み上げながら、わかりやすく説明する。

たとえば

受付などで

聴覚障がいのある人などに、ホテルや施設の受付などで、筆談や手話など音声とはちがう方法でも会話ができるような準備や工夫をする。

みんなも取り組もう!

こちらから声をかけよう

障がいのある人が困っているところを見かけたら、こちらから積極的に声をかけて、何か手助けできることがないかを聞きましょう。自分だけでは無理そうなら、まわりの大人にも助けてもらいましょう。

たとえば

駅などで

車いすの人が電車に乗るとき、また電車から降りるときには、それぞれの駅で連絡を取り合って、すみやかに駅員が乗り降りの手助けをする。

たとえば

職場などで

障がいのある人を職場にむかえるときは、本人のプライバシーを守りながら、ほかの職員に障がいの特徴や必要な心づかいなどを説明する。

たとえば

行列などで

行列ができたときなど、障がいの影響で長い時間立ったままで待つことがむずかしい人には、(まわりの理解を得て)いすなどを用意する。

たとえば

空港などで

車いすの人などが空港で飛行機に乗るときなどは、手続きなどに時間がかかるので、ほかの乗客よりも受付の時間や順番などを早くする。

みんなも取り組もう!

助け合って平等になろう

たとえば順番待ちなどで障がいのある人が優先されても、「ずるい」などと不満に思うことはやめましょう。それが理解や手助けが必要な障がいへの心づかいで、助け合ってこそ本当の平等が生まれます。

障がいのある人に関するマークを知ろう

身体障害者標識

- 手や足などに障がいのある方が車を運転する場合に、車に表示するマークです。
- このマークを表示した車に対し、幅寄せや割り込みをすると、道路交通法違反となります。

聴覚障害者標識

- 音が聞こえない、聞こえにくいなどの障がいのある方が車を運転する場合に、車に表示するマークです。
- このマークを表示した車に対し、幅寄せや割り込みをすると、道路交通法違反となります。

障がい者のための国際シンボルマーク

- 障がいのある方に配慮された建物、施設であることを表す世界共通のマークです。
- このマークのある駐車場やトイレ等では、障がいのある方の利用に配慮しましょう。

盲人のための国際シンボルマーク

- 視覚障がいのある方に配慮された建物、設備、機器などにつけられている世界共通マークです。
- 街角の信号などでこのマークを見かけたら、視覚障がいのある方への支援や協力をお願いします。

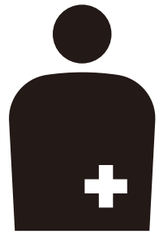
街頭や施設などで見かける障がいのある人にかかわる主なマークには次のようなものがあります。みんなで理解・協力して豊かな共生社会をつくりましょう。

耳マーク

- 耳が聞こえない、聞こえにくいなどの障がいのある方が、自身の障がいを表すために身につけるマークです。自治体、病院、銀行等の窓口でも表示され、聴覚障がいのある方が利用しやすい環境づくりにも活用されています。
- このマークを身につけている方を見かけたときは、「はっきり口元を見せて話す」「筆談をする」などの配慮をしましょう。

ほじょ犬マーク

- お店などの入り口に表示され、身体障がい者補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の受け入れについて周囲の理解を求めるマークです。
- 補助犬は、法律に基づいた訓練を受け、「仕事中」は補助犬の表示をつけます。
- 補助犬は、お店などに入ることが法律で認められています。補助犬を見かけたら、受け入れへの理解をお願いします。



オストメイトマーク

- トイレの入り口に表示され、人工肛門・人工膀胱を保有する方（オストメイト）が利用できるトイレであることを示すマークです。
- オストメイト対応トイレがどこにあるか聞かれたときは、このマークのあるトイレを案内してください。

ハート・プラスマーク

- 内臓に障がいがあっても見た目は分からない方への配慮を求めるマークです。ご本人が身につけたり、駐車場や鉄道・バスの車内等で表示されたりしています。
- このマークを身につけている方を見かけたときは、優先駐車場や優先席の利用をすすめる、携帯電話の使用を控えるなど、思いやりのある行動をしましょう。